

# 教育研究業績書

2018年05月14日

所属：生活環境学科

資格：准教授

氏名：井上 雅人

研究分野	研究内容のキーワード
デザイン史、ファッション史、物質生活史	近代、日本、ファッション、デザイン、物質生活
学位	最終学歴
修士（社会学）、学士（文学）	東京大学大学院 人文社会系研究科 社会文化研究専攻 博士後期課程 満期退学

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
<b>1 教育方法の実践例</b>		
1. 生活デザイン・文化に関する情報交換会	2016年4月1日	生活環境学科生活デザインコースのカリキュラム整理
<b>2 作成した教科書、教材</b>		
<b>3 実務の経験を有する者についての特記事項</b>		
<b>4 その他</b>		
1. 生活環境学科担任代表	2017年4月1日	
2. 生活造形学科担任代表	2015年4月1日2017年3月31日	

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
<b>1 資格、免許</b>		
1. 専門社会調査士	2010年10月	
<b>2 特許等</b>		
<b>3 実務の経験を有する者についての特記事項</b>		
<b>4 その他</b>		
1. 附属ミュージアム準備室運営委員	2016年4月1日	
2. 共通教育委員	2014年4月1日2017年3月31日	

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
<b>1 著書</b>				
1. 洋裁文化と日本のファッション	単	2017年06月19日	青弓社	女性たちが自分の洋服を自らの手で作る技術を中心とした洋裁文化。1940年代後半から60年代半ばまでの間に一気に形成され、そして消滅したその実態を、デザイナー、ミシン、洋裁学校、スタイルブック、洋裁店、ファッションショーなどの事例から立体的に描き出す。
2. デザインの瞬間	共	2003年06月	角川書店	責任編集。人はなぜものをつくるのか？ 空間演出の先駆者にスポットを当て、ものづくりのプロセスを紐解く。多分野の空間演出の先駆者の紹介も収載。ものづくりの本質を見極め、本来あるべき正しい道を探る。
3. 洋服と日本人 国民服というモード	単	2001年10月1日	廣済堂出版	日本人に洋服=近代産業社会的な身体をもたらしていったのは、国民服、標準服、もんぺといった軍国主義の産物であった。総動員体制下における着ることの自由と不自由を指し示す。
<b>2 学位論文</b>				
1. 「モード以前の事：国民服と標準服のデザイン決定及び普及活動に見られる衣服のメディア性とコミュニケーション状況」	単	2000年03月	東京大学大学院	修士論文。日本人が近代産業社会的な身体を獲得する葛藤の中で、洋服という具体化された物とどのように格闘してきたかを、メディア論、ファッション論、記号論などの視点から明らかにした。
<b>3 学術論文</b>				
1. スタイル画は何の技術か 長沢節とセツ・モードセミナー	単	2017年04月01日	『Fashion Talks...』 vol.15 京都服飾文化研究財団	長沢節は、「スタイル画」の名の下に、デザイン画、ファッション・ポートレート、イラスト、挿絵、美人画、風俗画、グラフィック・デザイン、マンガ、ファッション・イラストレーションなどを統合しようとした。しかし、それらはその後、各分野に再び離散し、解体され、実態を失っていった。長沢の持っていた可能性とは何か。
2. 戦中戦後の女性雑誌における化粧を語る言葉	単	2016年11月15日	『マキエ No.36』 ポーラ文化研究所	日本において化粧品は、戦後の民主主義とともにやって来たわけではない。戦前から大手の化粧品会社

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
<b>3 学術論文</b>				
3. 衣冠束帯 スーツ 工人服 軍服 四つの身体を統合する試みとしての国民服	単	2013年10月	『日本の男服 メンズ・ファッションの源泉』神戸ファッション美術館	は存在し、戦中を通して、広告を行なって来た。また、化粧品に対しての論評や批判も存在し続けた。戦争を挟んで、何が変わり、何が変わらなかったのか。
4. コム・デ・ギャルソン論争とアンアン革命 一埴谷雄高と吉本隆明の論争にみる、ブレタボルテへのまなざしの変化	単	2013年09月	『京都精華大学紀要』43号 京都精華大学	国民服は、20世紀の人間がいくつもの身体を持っていたことを教えてくれる。そして社会には、いくつもの身体を統合しようと試みる脈動が絶えずあることも教えてくれる。国民服は20世紀における例外的な衣服として扱われがちだが、国民服以前の歴史も、国民服以降の歴史も、国民服と同様の、身体の統合と失敗の試行錯誤の歴史としてあることに変わりはない。国民服以降の衣服の革命的变化も、身体のどのような区分の統合を試み、成功もしくは失敗したのか、という観点で見直さなければならないだろう。
5. 国民服 境界なき空間のユニバーサルな身体	単	2013年04月	『DRESSSTUDY』63号 京都服飾研究財団	
6. 造形は衣服と建築から成っている 今和次郎の服装論	単	2013年01月	『今和次郎と考現学』河出書房新社	
7. 自由・平等・コム デ ギャルソン——コム デ ギャルソンと制服の思想	単	2012年12月	『相対性コム デ ギャルソン論』フィルムアート社	
8. 移動する身体	単	2012年10月	『生活の美学を探る』光生館	
9. 80年代をどう捉えるか	単	2012年02月	『Fashionista』1号	
10. プロダクトデザインに倫理はあるか	単	2011年11月	『生活をデザインする』光生館	
11. ファッションデザインを歴史的に考える	単	2011年10月	『生活をデザインする』光生館	
12. 終着としての世界デザイン会議	単	2011年07月	『デザイン史学』9号 デザイン史研究会	
13. 洋裁文化の構造——戦後期日本のファッションと、その場・行為者・メディア (2) (査読付)	単	2011年	『京都精華大学紀要』38号 京都精華大学	
14. 日本における「ファッション誌」生成の歴史化	単	2010年	『都市文化研究』12号 大阪市立大学	
15. 洋裁文化の構造——戦後期日本のファッションと、その場・行為者・メディア (1) (査読付)	単	2010年	『京都精華大学紀要』37号 京都精華大学	
16. 昭和三〇年代におけるファッションとテレビCM	単	2010年	『テレビ・コマーシャルの考古学』世界思想社	
17. 2007年 関西の洋裁店・洋装店に関する調査研究	単	2009年	『関西文化研究叢書11 関西における洋裁文化形成に関する研究』武庫川女子大学	
18. 「メディア論」の身体論的問題構制——マクルーハンとマンフォードにおける身体・機械・メディアを中心に	単	2007年	『京都精華大学紀要』33号 京都精華大学	
19. 隆盛期の藤川学園と洋裁文化	単	2005年12月	『関西文化研究』4号 武庫川女子大学	
20. 近代化と民族化——明治時代における和服の近代化をめぐるファッション論	単	2004年	『民族芸術』20号 民族芸術学会	和服を消費社会のなかの商品として捉えた時にどのような論点が浮かび上がってくるかを、「演技」「まなざし」「技術」などの視点や、身体との関わり、流行という観点から考察した。
21. 総動員体制下の衣服政策と風俗	単	2003年	『衣と風俗の一〇〇年』ドメス出版	国民服、標準服などを文化政策として捉え直し、それが編み出されるまでの文化的葛藤や矛盾を、デザイナーである斎藤佳三の著作を中心に分析することによって検討した。
22. 衣服のコミュニケーション	単	2003年	『モードと身体—ファッション文化の歴史と現在』角川書店	衣服におけるメディア性の二つの位相、衣服自体におけるメディア性、マスメディアにおける情報としての衣服について考察した。
23. ベネトンの広告写真家	単	2003年	『現代写真のリアリティ』角川書店	広告／芸術／報道の垣根はどこにあるのか。ベネトンというアパレル企業の広告戦略を担当したオリヴィエーロ・トスカーニの例を見ながら、マスメディア／企業／個人におけるメッセージについて考察した。

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
<b>3 学術論文</b>				
24. ファッションの歴史記述の諸相	単	2002年	『デザイン学研究』9 巻4号 デザイン学会	「ファッション」という言葉をめぐって様々な記述 がなされてきたが、言葉に対する定義の不確定性か ら歴史認識も定まらず、言説は混乱している。ファ ッションをどのように記述していけば良いかを提言 した。
<b>その他</b>				
<b>1. 学会ゲストスピーカー</b>				
1. 日本人と衣服の歴史	単	2016年08月2 9日	応用哲学会サマースク ール2016 「ファッション批評の 最前線：fashion meets philosophy」 1/8bldg. 4F イベント スペース Ipe	応用哲学会主催レクチャー 8月29日(月) - 8月30日(火) 13:00-18:00
2. 服飾文化研究における資料の問題	共	2006年03月	武庫川女子大学 日本家 政学会服飾史・服飾美 学研究部会	登壇者：井上章一、井上雅人
3. 「衣と風俗の一〇〇年」	共	2004年10月	日本生活学会 公開シ ンポジウム「衣と風俗 の一〇〇年」	
4. 「戦後50年間の服飾文化および服 飾デザインに関する概説書 ― 服飾文化学および服飾デザイン教 育の見直しのために―」	共	2003年11月1 6日	武庫川女子大学中央キ ャンプス 第45回意匠学 会大会シンポジウム	司会：横川 公子（武庫川女子大学） パネラー：青木 美保子（京都工芸繊維大学大学院） 、井上 雅人（京都造形芸術大学）、森 理恵（京都 府立大学）、平光 睦子（大阪大学）
<b>2. 学会発表</b>				
1. 『考現学の教科書』を考える	共	2011年05月1 5日	日本生活学会 第38 回研究発表大会 早稲 田大学	佐藤健二（東京大）・中谷礼仁（早大）・祐成保志 （信州大）・石川初（ランドスケープデザイン）・ 井上雅人（武庫川女子大）
2. 「ジャパニーズ・ファッション」 のはじまり	単	2011年03月2 7日	大正イマジュリイ学会 第9回全国大会	
3. 今和次郎の服装研究 着るを視る まなざし	単	2010年05月0 8日	日本生活学会 第37 回研究発表大会	シンポジウム「異装の考現学」
<b>3. 総説</b>				
1. 布の消滅	単	2017年04月0 7日	『最新 現代デザイン 事典』平凡社	2010年『デザイン事典』の改訂版
2. ファッションの調査でも、まず、 人の話をよく聴く	単	2017年03月2 5日	『日本生活学会 フィ ールドワークシリーズ 003：さまざまな方法 』日本生活学会	
3. 日本の洋裁文化と民主主義	単	2016年08月0 1日	「αシノドス vol.201 」株式会社シノドス	
4. 服の声を聴く	単	2016年05月0 1日	『文鯨』2016春号 『 文鯨』編集部	
5. 『ミシンと衣服の経済史』書評	単	2015年09月0 1日	日本歴史学会『日本歴 史』9月号 吉川弘文 館	岩本真一『ミシンと衣服の経済史 地球規模経済と 家内生産』の書評。
6. あした着る機能	単	2015年03月0 1日	『CEL』109号 大阪ガ ス	
7. 手づくりから既製服へ	単	2014年12月2 5日	『民俗学事典』丸善	
8. 「第三期デザイナー」までの理論 とデザイン	単	2014年09月1 0日	『視る』471号 京都 国立近代美術館	
9. 人生を彩る技術	単	2014年03月	『婦人之友』婦人之友 社	
10. 中原淳一と少女たちのメディア 少女雑誌からファッション誌へ	単	2013年11月	『ユリイカ』45巻1 6号 青土社	
11. 座談会) ミシンが語る母たちの近 代史	共	2013年10月	『婦人之友』婦人之友 社	アンドルー・ゴードン、井上雅人、田部小枝子
12. 西宮船坂ビエンナーレ2012「竹林 」について	共	2013年09月	『生活環境学研究』1 号 武庫川女子大学	森本真と共著
13. 植田正治写真美術館	単	2013年03月	『ポピュラー文化ミュ ージウム』ミネルヴァ 書房	
14. 神戸ファッション美術館	単	2013年03月	『ポピュラー文化ミュ ージウム』ミネルヴァ 書房	
15. 手芸と自家裁縫 趣味と生産のあ いだ	単	2011年11月	『生活文化玉手箱シリ ーズ2共感の ちから無 名のちから 明治・大正 ・昭和を生きた人々の	

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
<b>3. 総説</b>				
16. 日本の文字とグラフィックデザイン	単	2010年10月	手芸品』武庫川女子大学資料館 『生活文化玉手箱シリーズ1キモノの文字文様に託された世界』武庫川女子大学資料館	
17. 1940/50年代と消費者の身体 洋裁文化の事例を中心に	単	2009年7月	『ポピュラーカルチャー研究 Vol.2 No.4』京都精華大学	
18. ロンドン万国博覧会	単	2009年4月	『デザインの現場』美術出版社	
19. 「洋裁映画」にみる「デザイナー」の表象	単	2008年3月	『東アジアにおける洋装化と洋裁文化の形成』武庫川女子大学	
20. インダストリアルデザインからみたテレビCM	単	2008年	『テレビCM研究 Vol.2 No.3』京都精華大学	
21. 洋裁文化からみたテレビCM	単	2008年	『テレビCM研究 Vol.2 No.1』京都精華大学	
22. カタログ概史 コメニウスからインターネットまで	単	2007年	『ポピュラーカルチャー研究 1巻2号』京都精華大学	
23. ファッションデザイン	単	2006年	『近代デザイン史』武蔵野美術大学	現在我々が着ているものは何かという問題意識から出発し、西洋服飾史や、日本風俗史でも、洋装化史でもない衣服の「デザイン」の歴史を記述した。
24. ファッション文化	単	2004年03月	『社会情報学ハンドブック』東京大学出版会	ファッションにおけるメディアの二つの位相、メディアのなかの衣服と、メディアとしての衣服について検討した。
25. コンシューマ=デザイナーの発現 消費活動化するデザイン	単	2004年	『デザインニュース(266)』日本産業デザイン振興会	
26. プレタポルテ	単	2000年6月	『20-21世紀デザインインデックス』IN AX出版	
27. Tシャツ/ジーンズ	単	2000年6月	『20-21世紀デザインインデックス』IN AX出版	
28. スポーツウェア	単	2000年6月	『20-21世紀デザインインデックス』IN AX出版	
29. 再生衣料	単	2000年6月	『20-21世紀デザインインデックス』IN AX出版	
30. A-poc	単	2000年6月	『20-21世紀デザインインデックス』IN AX出版	
31. ピアシング/タトゥー	単	2000年6月	『20-21世紀デザインインデックス』IN AX出版	
32. 純粋デザインとしての存在が示すもの	単	2000年11月	『スタジオ・ボイス』299インファス	ウェブ上で展開されるヴァーチャルプロダクツについて、具体例を紹介しつつ、その限界と可能性を考察した。
33. デザイナーが造形する滑らかな身体、所有への渴望	単	2000年11月	『スタジオ・ボイス』299インファス	プラスチックによる有機的な曲線が人体と融合する時、それはむしろ活動を疎外する無機物として立ちあらわれる。プラスチックと人体を接合しようと試みたデザイナーやアーティストを紹介しつつ、われわれの身体の未来について考察した。
34. ファッション界を読み解くキーパーソン	単	2000年10月	『スタジオ・ボイス』298インファス	2000年のパリコレクションを総括しつつ、そこにあらわれる身体感や、産業構造の変化を紹介した。
<b>4. 芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績</b>				
1. 竹林	共	2012年10月	西宮船坂ビエンナーレ2012	「井上雅人研究室 + 森本真研究室」名義
2. stilllife 2.2	共	2011年8月	大阪市立図書館	「井上雅人 + CENTER EAST」名義
3. stilllife 3	共	2010年10月	「井上雅人 + CENTER EAST」展 京都造形芸術大学ギャラリーRAKU	「井上雅人 + CENTER EAST」名義
4. stilllife 2	共	2010年10月	「井上雅人 + CENTER EAST」展 京都造形芸術大学ギャラリーRAKU	「井上雅人 + CENTER EAST」名義
5. stilllife 1	共	2010年05月	「京展」 京都市立美	「井上雅人 + CENTER EAST」名義。「京展」入選

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
<b>4. 芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績</b>				
			術館	。
<b>5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等</b>				
1. 戦後日本のファッション	単	2018年2月19日	京都服飾文化研究財団にて発表	日本のファッション史における継続と断絶、神話化と神話作用についての解説。 「鹿鳴館以降、洋装化（衣服の近代化）が始まった。」「白木屋の火災で洋装が広まった。」「第二次世界大戦によって、洋装化が中断した。」「アンアン」によって、衣服は作るものから買うもの変わった。」「1980年代における日本の「ファッション革命」は、劇的に世界のファッションを変えてしまった。」(Valerie Steele)」といった神話を、一つ一つ解きほぐしていく必要がある。
2. ファッションって？ 一服について、学ぼうー	共	2017年11月03日	ロームシアター京都 パークプラザ	「これからの時代、どのように“ファッション”と付き合っていけば良いのでしょうか——。  ゲストに井上雅人さん、蘆田裕史さん、藤井美代子さんをお招きし、 これからのファッションについてお話しさせていただきます。  異なる特色を持つブランドをご紹介します、その特徴や差異から 今の時代の「ファッション」を読み解きます。 また若手ブランドのアイテムを扱うセレクトショップをやっていくことの意味、 ファッション業界に携わることに希望はあるのかなどなど。 様々な視点からお話いただきます。」 (京都岡崎蔦屋書店webサイトより)
3. 嗜好品とモダンデザイン	単	2017年07月08日	嗜好品文化研究会	ウィリアム・モリスからはじまり、バウハウスで完成するとされる「モダンデザイン（思想）」と、それへの反発である「反近代」としての「ポストモダン」という視点で、近代のものづくりを考えて行くことには無理が出てきている。「嗜好品」という切り口からだと、新しいデザイン史が見えてくる。
4. 図鑑デザイン全史	共	2017年07月06日	東京書籍	Design: The Definitive Visual History (DK)の翻訳
5. 戦後70年の軌跡 戦後日本のファッションと民主主義	単	2015年08月30日	朝日カルチャーセンター 新宿教室	日本では洋装化が、大衆化のプロセスの中で起こった。もちろん、戦前には上流階級における洋服の文化があり、和服においては百貨店やメディアがからんだ高度な消費社会的なかけひきはあった。しかし、総動員体制における徹底した身体平等化と、戦後に占領軍が持ち込んだ「民主化」という概念の、具体的な解釈の形として、現在の日本のファッションはスタートしている。「大衆」や「中流」という、のっぺりと漠然とした層にむけてファッションが作られてきたということは、この社会の性格を見事に反映している。「ファッション」と「民主主義」から、戦後日本の社会を読み解く。
6. 「ファッションを考える：ショップ」	共	2015年05月24日	gallery110	「ファッションと場」について考えることを目的とした連続トークイベントの第1回。 登壇者：成実弘至・井上雅人・蘆田裕史
7. 剣持勇の世界	単	2015年05月16日	同志社大学今出川キャンパス至誠館5階共同研究室	第6回デザイン史研究会
8. 長沢節 洋裁文化のアイコン	単	2014年10月1日	Think of Fashion 021	長沢節は、戦後の日本を代表するスタイル画家であり、華やいた少女たちを描いた中原淳一と対照的に、色気のある大人の女性と、線の細い男性を描いた。スタイル画は、現在ではデザイン画と混同されてしまうが、写真印刷が不鮮明な時代にあって、写真以上にコレクションの昂奮を伝えることのできる、時代特有のメディアであった。長沢は、「長沢はひとりでもいい」と言われるくらい模倣され賞賛された時代の寵児であった。しかし、あまり注目されることは無いが、長沢はスタイル画家以上に、当時のファッション界におけるプロデューサーとして活躍した。セツ・モードセミナーを創立して多くの学生を教えただけでなく、日本発のモードや既製服開発の中心となり、『an・an』などファッション雑誌の創刊に深く関わった。はたして長沢を節点として、いかなるものたちが交叉したのか。 戦後日本のファッションを考える。
9. 「Future Beauty」展を語る	共	2014年05月04日	gallery110	京都国立近代美術館で開催の「Future Beauty」展についてのトークイベント。 展覧会の主催者である京都服飾文化研究財団にも所属する石関を中心に、座談会形式で展示について経緯や裏側を含めて語りあった。

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
<b>5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等</b>				
10. 「日本のイタリアファッションについて考える」	共	2014年03月02日	gallery110	登壇者：石関亮・成実弘至・井上雅人・小北光浩・蘆田裕史 「古田賢とイタリアファッション展 ヴェルサーチコレクションを中心に」 2014年2月28日～3月9日、gallery 110におけるヴェルサーチ研究者の古田賢によるイタリアファッションコレクションの展示におけるトークイベント。
11. 1960年代のデザイン	単	2013年10月12日	シンポジウム「1960s—メンズ・ファッションの黎明期」 神戸ファッション美術館	
12. デザイン史研究の現況	単	2013年08月23日	帝国ホテルタワー（インペリアルタワー）9階 ・武庫川女子大学東京センター	第4回デザイン史研究会
13. コムデギャルソン論争とアンアン革命 DCブランドブームを考える	単	2013年05月26日	Think of Fashion 008	『アンアン』の1984年9月21日号に、「現代思想界をリードする吉本隆明の「ファッション」という文章が見開きで掲載された。そして、これが掲載された後に、吉本隆明と埴谷雄高の間に「コム・デ・ギャルソン論争」と呼ばれる一連のやりとりがあった。この論争にたいする評価は、非常に低い。「コム・デ・ギャルソン論争」と言いながら、「コム・デ・ギャルソン」に関する議論は、やり取りの最後にならないと出て来ない。しかし85年に起きたこの論争は女性が洋服を作ることから買うことになった時期の、象徴的な事件でもあるのだ。「コム・デ・ギャルソン論争」や「アンアン革命」という言葉を通して、「DCブランドブーム」をもたらした社会について考える。
14. ファッションの外野が自由に語るコムデギャルソン論——研究者編	共	2013年02月06日	心斎橋スタンダードブックストア（大阪）	西谷真理子・蘆田裕史・井上雅人・千葉雅也
15. カペルとは誰か—神戸仕立業はじめ	単	2012年11月12日	「日本の洋装化140周年記念シンポジウム CLOTHING JAPAN 140 日本の洋服の原点」 神戸ファッション美術館	
16. Kawaii Zakkaの可能性	共	2012年07月14日	「Kawaii Zakka 展覧会～カワイイとカワイクナイの間～」シンポジウム 中之島デザインミュージアム de sign de	スピーカー 岡田栄造（京都工芸繊維大学准教授）・井上雅人（武庫川女子大学講師） たかぎみ江（ぼむ企画）・多田智美（MUESM・編集者）
17. ファッションの批評について考える	共	2012年03月03日	スタンダードブックストア 心斎橋	ファッション批評誌『fashionista』創刊を記念したトークイベント 登壇者：井上雅人・蘆田裕史・水野大二郎
18. ファッションとアートの現在	共	2010年11月21日	『スティルライフ / CENTER EAST+井上雅人』展シンポジウム 京都造形芸術大学 ギャラリーRAKU	井上雅人/成実弘至/百々 徹/蘆田裕史/石関 亮
19. 「スティルライフ 井上雅人 + CENTER EAST」展	+	2010年10月	京都造形芸術大学ギャラリーRAKU	CENTER EAST との共作「stilllife」シリーズの展示。
20. アートは地域を救えるか	共	2010年09月06日	西宮ビエンナーレ2010シンポジウム 場所：旧船坂小学校体育館（西宮市山口町船坂2103-2）	○パネラー：藤本由紀夫（「ヴェネツィア・ビエンナーレ」）、中瀬康志（FUJINO国際アートシンポジウム・神奈川）、端聡（CAI現代芸術研究所・札幌）、山重徹夫（中之条ビエンナーレ・群馬）、小野寺優元（国際野外の表現展比企・埼玉）、江上弘（我孫子国際野外美術展・千葉）、中田洋子（琵琶湖ビエンナーレ・滋賀）、松尾寛（銀聲舎・和歌山）、高見沢清隆（六甲ミーツアート・神戸）、西野昌克（有馬温泉路地裏アートプロジェクト）、田中圭一（堺市教育委員会指導主事）、河南誠（丹波篠山まちなみアートフェスティバル）、櫻井淳子（千早赤阪村野外美術展in棚田） ○コメンテーター：小吹隆文（美術ライター）、他 ○司会：井上雅人（社会学者・武庫川女子大学専任講師） ○オブザーバー：水野順之（文化・芸術による福武地域振興財団事務局） ○ホスト：藤井達矢（総合ディレクター）、北夙川不可止（舞台公演担当ディレクター）
21. 世界デザイン会議1960再考—WoDe Co 50周年をめぐって—	共	2010年07月17日	デザイン史学研究会第8回シンポジウム	会 場：津田塾大学 AVセンター1階 柴久庵憲司（インダストリアルデザイナー） 柏木 博（武蔵野美術大学教授・デザイン評論家）

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
<b>5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等</b>				
22. 洋裁文学と映画	単	2007年06月24日	MKCR第4回国際シンポジウム「東アジアにおける洋装化と洋裁文化の形成」	井上雅人（武庫川女子大学講師）井口壽乃（埼玉大学教授・デザイン史学研究会会長） かつて戦後の社会において、洋裁を舞台とした文学と、それを原作とした映画が数多く作られた。というのも、当時の社会には、洋裁家、洋裁師、ドレスメーカーなどと呼ばれた「デザイナー」がどのような存在で、どのような生活をしていたかについて、分かりやすく使いやすい共通のイメージがあったからである。それは、社会のなかで一人生きていく女性というイメージである。
23. ファッションと身体	共	2005年07月	日本経済評論社	ジョアン・エントウイスル著 協同翻訳
24. 関西ファッション史の形成にむけて	単	2004年07月26日	武庫川女子大学中央キャンパス	『関西におけるファッション（衣）文化の形成－裁縫習得及び衣服作りに関する事例発掘を通して－』の研究会
25. 「衣服文化と伝統の創造」	単	2004年02月	国立民族学博物館	国立民族学博物館共同研究『【13】モノに見る生活文化とその時代に関する研究－国立民族学博物館所蔵の大村しげコレクションを通して－』発表
26. 「無駄の効用－揺らぎと遊び－」	共	2004年01月	国立研究開発法人 科学技術振興機構 異分野研究者交流フォーラム	コメンテーターおよび実行委員

<b>6. 研究費の取得状況</b>				
1. モノにみる現代日本の生活文化と歴史の発掘とその活用に関する研究	共	2012年度～2015年度	科学研究費 研究分野： 文化人類学・民俗学 研究種目： 基盤研究(C)	研究分担者
2. 最初期テレビCMの学際的研究-ネットワーク配信による研究・教育活用システムの構築	共	2009年度～2011年度	科学研究費 新学術領域研究(研究課題提案型研究費)	研究分担者
3. 現代日本のポピュラーカルチャーの相関分析による成立基盤の実証的研究	共	2009年度～2010年度	科学研究費 研究分野： 芸術学・芸術史・芸術一般 研究種目： 挑戦的萌芽研究	研究分担者
4. 暮らしにおけるモノと人との相互的関係に関する生活文化学的研究	共	2004年度～2006年度	科学研究費 研究分野： 文化人類学・民俗学 研究種目： 基盤研究(B)	研究分担者

学会及び社会における活動等

年月日	事項
	日本生活学会